

5. 感染症とワクチン(予防接種) -感染症の悪化を予防するために

こつずいよくせい
骨髄抑制が起こっている期間は、体の抵抗力が低下してしまいます。この期間に感染症にかかると、重症化するリスクが高くなります。日頃の感染予防対策(11～21ページ参照)を行うとともに、ワクチン接種で感染症の悪化予防ができるものは、予防するようにしましょう。

《がん患者さんが起こしやすい感染症》

インフルエンザ、かぜ、胃腸炎、膀胱炎など、日常よく耳にする感染症の他に患者さんの体に点滴や排泄のための管などが挿入されている場合、挿入されている部位やその管を介して細菌などが侵入し、感染症が引き起こされることもあります。管が入っている所に発赤や痛みがないか、排泄の色がいつもに比べて濁っていないか等の観察と清潔にするといった適切な管理が必要です。管類の管理方法は医療者から指導があるので、しっかりマスターしましょう。また一人で管理するのが難しい場合は、家族や地域の訪問看護や往診してくれる診療所にヘルプをお願いするのもよいでしょう。

《ワクチンの接種について》

- ワクチンを接種する時期等については、担当医に相談して下さい。
インフルエンザワクチンのように、毎年の接種が必要なものもありますが、肺炎球菌ワクチンのように5年毎に行うものもあります。また接種する回数や空ける期間等もワクチンによって異なります。がんの治療中に行うワクチン接種は、病状や治療によっては接種できないこともあるので、必ず担当医に相談して下さい。
- 家族などの同居者もワクチン接種を受けるようにして下さい。
患者さんがワクチン接種をしても、周りにいる家族などが感染症にかかってしまえば、感染のリスクは高くなります。家族もワクチン接種を受けるようにして下さい。
- 市区町村によっては、接種費用の助成を行っている所があります。詳細はお住まいの役所に確認して下さい。



ワクチンの豆知識

～不活化ワクチン、生ワクチン、メッセンジャーRNA ワクチン～

ワクチンには細菌やウイルスを殺し、その成分で作った不活化ワクチンと生きた細菌やウイルスを弱毒化させている生ワクチンがあります。

また、2021年に新型コロナウイルスに対しメッセンジャーRNA ワクチン接種が始まりました。このワクチンは、ウイルスを構成するタンパク質の遺伝子情報をもとに、体内でウイルスのタンパク質を作り、そのタンパク質に対する抗体が作られることで免疫を獲得します。

不活化ワクチンは感染力がありません。1回の接種では抗体が付きにくいので、通常2～3回繰り返して同じワクチンを接種する必要があるものもあります。

一方、生ワクチンは弱毒化をさせていますが、生きたウイルスを接種するため、感染を発現する可能性があります。

不活化ワクチン	インフルエンザ、肺炎球菌、B型肝炎、破傷風 など
生ワクチン	風疹、麻疹、おたふくかぜ、水ぼうそう など
メッセンジャーRNA ワクチン	新型コロナウイルス

